

鉦取られ物語・松江市美保関町七類 令和3年3月16日掲載

収録・解説・酒井 董美（たむよし） イラスト・福本 隆男



語り手 森脇キクさん（明治39年生まれ）
収録・昭和41年7月26日

あらすじ

とんと昔があつたげな。とんと隣の唐六左衛門が鉦を借りに行きたげな。ついでにの日にに行きたら、「ついでに」といふもどいた。ふつかの日にに行きたら、「不都合な」とばかり言わさる。みつかの日にに行きたら、「見たことあるにや（無い）」。「用（無い）に行きたら、「用（無い）に行きたら、「いつかに行きたら、「いつのこと、疾（とうもどいた）」。「むいかに行きたら、「無理なことばかり言わさる」。なのかに行きたら、「何のことだか」。ようやくに行きたら、「よもよも（本当に）よう来たなあ」。このかに行きたら、「ここにはにや（無い）」。「とうかに行きたら、とうとうもどきさだつた。そつで昔（つ）ぼり。

解説

不思議なことに同じ収録日に近く同じ集落で作野ヨリさん（明治三十七年生）からも同類をうかがっているが、その後はどうしたことか、山陰両県では同類に出会うことはない。

実はこの話は、主として東北地方で語られていたらしい。この話を最初に記録しているのは、江戸時代の旅行家で民俗学者であった菅江真澄（一五四〜八二九）であった。三河出身の彼は、北海道・東北・信濃地方を旅行し、その見聞を遊覧記としてまとめている。そのうちの一つ、『はしわのわか葉』の天明八年（一七八〇）五月十日の日記に、問題の「鉦取られ物語」が次のように名前だけではあるが登場している。

：…十日 寝坊して、日がたかくなつてから起きた。（中略）昨夜からここに盲法師たちが泊まっているので、それをよび出すと、（中略）「鉦取られ物語」「しろこのもち、くろこのもち」などの早物語を語ってくれた。……

文章の後半に、はつきりと「鉦取られ物語」の名が見え

るのである。

こうしてみると、早物語の本場庄内地方において、この「鉦取られ物語」は、早物語として語られていたと見るべきなのである。

一方、わたしの収録した美保関町の話は、昔話として語られていた。しかも、同じ地区で偶然に二人から同一の話聞くことが出来たことは何を意味しているのかわからうか。考察を進めてみると、推測の域を出ないが、大きな理由は美保関地区は庄内地方と同様、日本海側の漁村であり、日本海を媒介として、昔から陸路では困難な人々の交流が、案外容易だったと考えられる。鎌倉時代以降、源を持つ物資交流の役割を果たした回船は、江戸時代でも北前船、西回り航路などとも称されて盛んであり、両地区でもそのような交流が見られた模様で、そのような結果、東北地方で人気のあった「鉦取られ物語」が、この山陰の地にもたらされたと推測することは決して不自然ではないように思われる。

（元島根大学法文学部教授）

